

“Boys and Seniors, be ambitious!”

3月のブログでも触れましたが、71歳の誕生日の翌3月18日、二つのことがありました。一つは朝日新聞朝刊の「声」欄に投稿記事が掲載されたこと。もう一つは、この日、定年になってから2回目のTOEICを受験したことです。両方とも語学（英語）に関連する事象ですが、たまたま重なってしまった。

新聞への投稿のきっかけは、購読している週刊誌「TIME」の3月初め号の記事に刺激されたことです。近年、日本のマスコミでも取り上げられていますが、日本から海外への留学生が減っている、特に米国へは激減している、との報道です。一方で、中国や韓国からの留学生は激増しており、日本ははるかに後塵を拝している。さらにTOEFLのスコアはアジアの27カ国中で最下位だ、と具体的な数字を表示しながら記述しているのです。



海外留学アドバイザーとして、私も日常的に留学生に接したり留学そのものへの関心も高いので、そうした傾向を憂え、内向き志向の若者へ呼びかけたものです。掲載文は次の通りでした。

若者よ外国語を学びに出よ

英語講師 清水 武 (東京都昭島市 71)

先日、米国人のドナルド・キーン氏が日本国籍を取得されたとの報に接した。日本文化に学識の深い氏の志と行動は、私たちの心にも一石を投じたのではないか。

太平洋戦争の開戦後まもなく、米海軍は全米の大学から優秀な青年を集めて日本語の特訓をしたという。戦時中、「敵性語」として英語を排斥した日本がアメリカに勝てるわけはなかった。卒業生の中には、キーン氏など多くの知日派や、日本との友好交流に深いつながりを持つようになった人がいた。

国として国際舞台で発言力を高めていくためにも、企業が海外に発展していくためにも、外国語に堪能な人材の育成は不可欠となってきている。だが、そんな流れに反するように、新聞や雑誌によれば日本人の英語のレベルはアジアで下位で日本人留学生数も減少しているという。若者の内向き志向が原因なのだろうか。

(半世紀以上も前、私が田舎の高校生だった頃はフルブライト留学に憧れたものだった。その夢がかなわず自費だけれど定年後に留学を実現した。海外での生活は語学のみならずいろんな意味で人生を深め幅を広げてくれる)

今こそ“Boys be ambitious!”と訴えたい。



下部の斜字体の部分はオリジナル原稿からカットされた部分です。原稿が長過ぎたのか、それとも個人的なことだからですかね？ 投稿が新聞に載ると、高校時代の同期仲間や大学の同窓生などからいくつもの反響がありました。手前味噌で恐縮ですが、どれも時宜を

得た提言だ、というわけです。

おりしも、その 1 週間後の各紙によれば、文部科学省も現在の傾向を心配し、留学を積極的に進める大学に経済支援もするとまで突っ込んだ状況になってきたのです。

若者を取り囲む日本の就職環境の厳しさが反映しているのでしょうか、なんとか踏ん張ってほしいところですね。まさに”**Boys, be ambitious!**” です。

同時にもう一つ思うことは、シニアの生き方です。

定年後、年金の心配と将来どう介護保険の世話になるかといった考えのみの人を多く見かけます。もし高齢者の全員がこんな考えだったら、日本の国はお先真っ暗でしょう。高齢者でも働ける人は働き税金も社会保険も納めていく。そして稼いだお金でやりたいことも楽しむ、といった前向きな生き方が求められているのではないのでしょうか。

シニア世代にも訴えたいのです。 “**Seniors, be ambitious!**”

